



三原市老人大学

# ふれあい

第88号  
発行・編集  
三原市老人大学  
ふれあい新聞  
編集委員会  
電話 64-6868

## 老大再発見

学長 植木章弘

### (一) ボランテニアあつめの 老人大行

今年の入学式は好天に恵まれ、新年度のすばらしいスタートが切れました。私は行事の度にボランテニアの皆さん方に感謝の思いです。

ボランテニアの仕事は前日から当日、そして片付けとあります。

入学式前日の夕方、「ポポロ」に集まった時は、あいにくの雨模様で、駐車場準備は翌日の朝に行うことにして、全員が舞台づくりと受付準備に取り掛りました。

そして「明日の天気は大丈夫じゃ。」みんながそう言い合っていて別れました。

私は駐車場はけっこう時間がかかると知っていましたので、翌朝八時半に駐車場に行ってみますと、水たまりの残っているグラウンドで既にロープ張り作業が始まっています。後から来られたボランテニアの人が「もう、やっとなるんか。」と声をかけると、「みんながやるうやろうと言うてきかんのじゃ。」と仲間の返事に笑い声

があがりました。

いささかも苦勞を苦にしない皆さんの動きです。ほどなく仕切ロープが張られ、これで車が順序よく納められます。私はやつと終わりの思いきや、なんと水たまりを鉄のレーキを持って来て皆さん地ならしを始めたられました。これには驚きました。通常よりさらに時間のかかる作業となりました。そして最後に泥と汗で汚れた作業着を脱いで、入学式の服装に着替えた姿を眼にした時は、頭の下がる思いでありました。

一口に、これは老大の伝統の一つとしても、すごい「老大の底力」と言わざるを得ません。

### (二) 忘れ物ケースに 笑みと自戒

老大事務室前の廊下東に、皆さんの忘れ物を収納している大きなケースがあることは御存知と思います。

忘れ物は誰にもあることです。ましてや日々授業に集中した後、ついうっかり忘れ物をされることは当然あることです。「パソコンファイルはあります。帽子を忘れましたか。」色はベージュです。等々、こんな風に事務室に問い合わせがあるのは幸いです。

しかし、忘れ物ケースには持ち主のわからない忘れ物が納められているのであります。入学式の後片付けの際、「赤いケースに入ったメガネ」を見つけてきました。早速玄関口に説明文を添えて五月いっぱいまで展示しましたが持ち主はわかりませんでした。

また、二月、はき間違えられて残った「女性の革靴」を玄関口にずっと展示してきました。音が音沙汰無しのままです。

忘れ物は誰にもあるとは言いがた、今、事務室では「最近、特に忘れ物が多いのが気になるね。」そんな話題が交わされています。

私はいつか事務局会議で「あの忘れ物ケースの品を全部どこかに移して一度空にしてみようかと思っております。」

多分、「何を言いなさる。あれは老大の大事な歴史と財産です。」そんな声が返って来ると気がいたします。

私は学生の皆さんが「つつかりの忘れ物」はあるとしても、どうかお怪我等をなさらないよう、この忘れ物ケースを見ては「祈り」と自分への「戒め」にもなっています。

## 院③の遠足

### 西宮の法常寺

今春、院パソコン③クラスの有志は、三原八幡宮での花見と郷土の歴史を学ぶ「遠足」を実施しました。

今回、私たちが訪問したのは、三原八幡宮の西側にある曹洞宗「東日山法常寺」でした。



山門を入り、クラク状に折れ曲がった参道を進むと本堂や庫裡に到達しました。法常寺は、竹原小早川氏の菩提所として、竹原新庄に創建され、天正二十年、現在地に移転して、三原城の西側の出城としての機能を持ったようです。

慶長二年六月、小早川隆景公が薨去された際には、この寺で葬儀が営まれ、境内で火葬にされたそうです。その火葬塚跡には小さな祠がありました。

今回の訪問によって、このような歴史を持った寺院があったことに感動いたしました。

## スズメバチとの格闘

### 院パソコン③ 高篠和男

いつものコースを散歩中、何か左足が痛み出した。下を見てみると大きな蜂が靴下にしがみついている。足を振っても逃げない。さらに数回激しく振るとやつと逃げたが、かかとの上が痛む。病院の時間は終わっている。様子を見ながら我慢。

被害に遭った付近を翌日覗いてみると、墓地山門の天井にスズメバチの巣が見える。15センチ位のボールと10匹位の蜂。何とか撤去したい。

墓を構えている人に、墓地管理者にお願いをしたのだが、と持ちかけるも、管理者は10年前に亡くなっており、連絡先も不明とのこと。他の人に確認するも同じ答え。

市役所に問い合わせたところ、防護服を貸し出すので自分で処置するようにとの回答。防護服を借り受け、殺虫ジェット、虫取り網、長靴、脚立等を準備。着用テストするもぎこちなく、不安が残る。

事前に投げ撮りで撮影した数枚の写真の中に1枚だけ巣の出入り口らしきものが見える。ここに噴射すればよい。



蜂が鎮まる夜が良いとのこと。九時開始。グラグラの脚立

の上、汗だくで天井を見るも巣が見えない。何とか噴射しようとするも手袋が固くジェットレバーが動作しない。

しばしの後、やつと噴射開始。その1秒後に蜂が右手目掛けて突っ込んできた。ひるまず噴射継続、最後は1mから噴射させるようにと書いてあるが2m以上の状態から近づけない。

網も届かず疲れ果て、その日の行動は打ち切り、自宅に帰ると熱中症なのか気分が悪い。水分補給のビールもおいしくない。シャワーを浴びて早めに床に就く。

翌日覗いてみると出入り口には蜂が見えないが、巣の周りに時々2匹程度が飛んでいるのみ。一応は成功か。

巣を落とさなければ直ぐに修復されるのでは。巣を外すのは防護服返却前の昼間に実行と決める。

翌朝、巣の周りを2匹が飛んでいる。高枝切を伸ばすと何とか届く。巣の捕獲はあきらめて左右に振り当てて破壊に成功。



残党は2匹のみであり、その内、網に掛かるか、退散するであろう。くたびれたあ！



三原城築城四百五十年

院パソコン③ 桶東愛生

小早川隆景は、小早川歴代の居城であった本郷の古高山城から一五五二年に新高山城へ移城し、更に一五六七年に三原城を築きました。

したがって、今年には三原城築城四百五十年にあたります。

小早川家文書之二に掲載されている小早川家系図の隆景の項に「永禄十年築三原城二月成」という記載があります。

このことから三原城は、小早川隆景が永禄十年(一五六七年)二月に三原湾にあった小島や中州を繋いで砦を築いたのが始まりとされています。

それまで、小早川隆景は本郷の新高山城を本拠地としていました。沼田川河口へ三原要害を築いたものと考えられます。

さらに天正八年(一五八〇年)十年にかけて、三原要害を瀬戸内を軍事的に掌握するため、水軍の本拠地としての「三原城」の整備を進めました。

当時の三原城は北側に壮大な天主台を置いた本丸があり、その東・西・南の三方に二の丸を配置し、東側に三の丸と東築出、西側に西築出を設けた城郭でありました。

また本丸東南には突出部を持つ船入櫓を備えるなど、城郭と軍港の機能を兼ね備えたものであります。さらに、城の周辺には、竹原

新庄から法常寺、新高山城内から匡真寺(宗光寺)、長谷から正法寺、南方から中台院、船木から極楽寺、古高山山麓から香積寺、大善寺などの寺院を移築して外郭防衛拠点として配置しました。



隆景広場から天守台を望む

天正十五年(一五八七年)、小早川隆景は、秀吉から筑前、築後、肥前一郡半の三十七万一千石を加増され、三原から筑前名島城へ移りました。

それから八年後の文禄四年(一五九五年)には、養子の秀秋に家督を譲り、三原城へ隠居しました。三原に帰った隆景は、再度三原城の修築に取りかかっています。この時期に新高山城の石垣の石を運ばせるなどしていることから、三原城が完成したと思われる。

当主を引退した隆景の隠居城にしては堅固すぎる三原城を築いた背景には、毛利の東の防衛拠点を構築する意図をくみ取ることが出来ます。

ひろしま

やまや未来博2017

院パソコン③ 中重幸治

今年、広島県が頑張っている「まちづくりと地域振興のためのプロジェクト」ですね。

これとは別に三原市では「瀬戸内三原築城450年事業」として、さまざまな催しが企画され、関わられている方々から毎日奮闘中のレポートがフェイスブックで流されています。

イベントの中には多少「さとやま未来博2017」とコラボしているものも見受けられますが、私の住んでいる地区でのメインは田舎なもので「ひろしま」と「やま未来博2017」のほうの色濃く出ています。



今年を持ち回りの地区総代が私の方へ回ってきましたので、寺惣代、宮惣代も含めていろいろなお役をおおせつかり、その中の一つとして「ひろしま」と「やま未来博2017」がらみの「三原市中山間地域活性化事業」にも関わることになりました。

といっても三原市がではなく、農林水産省主導で五年間の補助金がつくというので、三原市でも二十三地区中十六地区が頑張っています。

「瀬戸内三原築城450年事業」については、旧市内の方は町を歩けば様々なところでイベントのポスターやチラシで情報を得ることができると思いますが、「三原市中山間地域活性化事業」と「ひろしま」と「やま未来博2017」についても理解いただき、機会があれば足を運んでいただきたいと思います。

「三原市中山間地域活性化運動」は「高齢者対策・子育て支援」「地域産業の活性化」「地域資源を生かした観光・交流」「地域活動・イベントの活性化」「若者定住 U・J・I・ターン」の促進の五つの基本方針からなっていて、そのどれもが過疎地にある問題です。

これらの問題を五年間で何とか目処を立てないと補助金は打ち切られ、大切な税金が泡と消えてしまう政策ですが、各地区頑張っているいろいろなイベントを立ち上げているようです。

たとえば、「ひろしま」と「やま未来博2017」のホームページを見てみるとシンボルプロジェクトとして「廃校リノベーション」「さとやまソーシャルライド」「さとやまスマイルラン」があり「廃校リノベーション」と「さとやまソーシャルライド」は既に始まっています。大和町の旧和気小学校では六月三十日に起工式が行われ「木とデニムの

学校」として生まれ変わろうとしています。

これらと関連して「ココロザシ応援プロジェクト」という「食」「動」「学」「手」「祭」「芸」のカテゴリーにチャレンジする地域などに実践を支援するプロジェクトも始動しています。

「古民家再生プロジェクト」「たまり場プロジェクト」などは参加型のプロジェクトで空家の多い県北地域を中心に活動しております。

木工の本場、府中市では巨大な丸太を切り出してもものづくりを体験するイベントもありました。また、近郊では大崎上島の「Happyライド」という島巡りサイクリング、竹原市仁賀町の「どろリンピック」というバレーボール大会。みんなも少し若ければ、というイベントが目白押しです。

これからも目を追って新しいイベントが計画されています。



トライアスロンさぎしま大会

この記事を書いている時点で、三原市で企画されているイベントは八月十一日からの「ヤッサ踊り」八月二十日の「トライアスロンさぎしま大会」八月二十七日の「アジア建築学生サマーワークショップ」の開催が決まっています。

また、最近の情報ですが「恋する灯台」に佐木島灯台が認定されたとか、嬉しいですね。子供の頃、夏休みの海水浴と言つたら小佐木島でしたが、人口七名の何もない島としてメディアやネット、アーティストなど間でちよつとだけブレイクしています。



恋する灯台「佐木島灯台」

「ひろしま」と「やま未来博2017」は十一月二十六日の日曜日までです。アンテナを張り巡らせて三原から少し離れて、少し若返って参加できるイベントを探して参加してみたいかがでしょうか。新しい発見が見つかるかもしれません。

【編集後記】

「ふれあい新聞八十八号」をお届けいたします。今回は院パソコン③が担当しました。次号は、院パソコン④の担当となります。